

科目名	作業療法評価学実習Ⅱ					授業の種類	実習	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	1年	後期
【授業の目的・ねらい】 作業療法の身体領域で使用されている評価と評価法に関する知識及び技法を演習を通して学習する。										
【実務者経験】 作業療法士として順心リハビリテーション病院、介護老人保健施設白寿苑にて、身体障害領域の幅広いリハビリテーションに従事経験。										
【授業全体の内容の概要】 作業療法の身体障害領域で使用されている評価法に関する必要な知識・技術に関しての知識を教科書、実技を交え学習する。										
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業療法の身体領域で使用されている評価と評価法に関して説明でき、実技を実施することが出来る。 ①各評価の意義を説明できる ②評価に必要な知識、技術を習得できる ③正しい検査測定方法を習得できる										
回数	講義内容								準備物(教材)	
1	感覚検査								教科書 プロジェクター等	
2	感覚検査								教科書 プロジェクター等	
3	筋緊張・疼痛検査								教科書 プロジェクター等	
4	協調性検査								教科書 プロジェクター等	
5	姿勢反射・バランス								教科書 プロジェクター等	
6	姿勢反射・バランス								教科書 プロジェクター等	
7	上肢機能検査								教科書 プロジェクター等	
8	脳神経								教科書 プロジェクター等	
9	脳神経								教科書 プロジェクター等	
10	MMT								教科書 プロジェクター等	
11	MMT								教科書 プロジェクター等	
12	MMT								教科書 プロジェクター等	
13	MMT								教科書 プロジェクター等	
14	MMT								教科書 プロジェクター等	
15	MMT								教科書 プロジェクター等	
定期筆記試験										
【使用教科書・教材・参考書】 作業療法評価学 岩崎テル子										
【準備学習・時間外学習】 作業療法士として対象者を評価することは重要です。評価を正確に実施するためには知識が必要です。定期的に小テストを実施し知識の整理及び準備を行う必要があります。 内容がわからないということにならないよう十分事前準備する時間を各自行う必要があります。										
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 小テストを20点、定期試験を80点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する										